

平成29年度

学校評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	平均値	
	重点目標	<p>1 本校教育に対する信頼の構築により、中学生や保護者にとって進学したい、進学させたい学校をめざす。</p> <p>2 3年・5年後の進路において、指導結果の更なる向上をめざし、厳しく、優しく親身の指導をする。</p> <p>3 学校評議員制度等に取り組み、目標の明確化及び開かれた学校による活性化を図る。</p> <p>4 探究コースの生徒には、国公立大学や難関大学への入学を想定し、「新潟県魅力ある私立高校づくり支援事業」国際人材育成の趣旨を生かしつつ進学で更なる勉学が可能な学力を最大限に育成する。文系教科指導のみならず、理系教科指導にも力を入れる。</p> <p>5 普通コースの生徒には、基礎学力から確かな学力の向上を図り、検証を重ねながら「やればできる」との実感を持たせ、自ら勉学に励む意欲を向上させ、課題解決力を育成し、生き抜く力をつける。</p> <p>6 看護科の生徒には、5年間で全員卒業・国試合格の目標を明確に持たせ、1学年から勉学に励むことにより可能となることを自覚させ、看護師になる志や職業倫理等を向上させる。</p>			
	今年度の目標	<p>1 進路指導の充実及び成果を追求する。</p> <p>(1) 3年間を見通した進路指導の構築をする。その際、学力を向上させることが進路選択の幅を広げることから、模試や検定学習等の指導を強化する。</p> <p>(2) 進路指導部と教務部の連携により、進路志望と教科選択が整合する指導をし、合わせて、進路志望の早期明確化を図る。</p> <p>(3) 進路指導部、生徒指導部、学年及び個々の教職員が一致協力して、身だしなみ指導を強化する。</p> <p>2 「新潟県魅力ある私立高校づくり支援事業」を更に充実・発展させ、成果を追求する。</p> <p>3 部活動の活性化及び成果として、強化指定部活動「サッカー部・野球部」はフェアプレイ精神に基づき、他の生徒の模範となるよう指導し、県大会優勝等をめざしその勢いを他へ波及させる。その上、スポーツをやる生徒の進路指導を重視した指導を徹底する。</p> <p>4 教職員による「授業力の向上」及び「指導の徹底」の取り組みを更に強化する。</p> <p>5 看護科における指導の課題を分析し、指導の向上及び充実を全教職員で取り組み、課題(5年で全員卒業・国試合格)を克服する。</p>			
教務	授業・行事等を100%計画どおり実施	円滑に授業や行事等が実施できるように調整・計画する。	3		授業・行事を100%計画通り実施することができた。
	集会時に5分前行動で移動	全校集会等で5分前行動ができるよう、指導と連絡を確実に行う。	3	2.3	5分前に集合することができ、定刻には整列点呼が行えた。
	検定合格率40%以上	宿題を含めた検定学習を行い、確かな学力が育成されるよう指導を工夫する。	1		合格発表が行われていない検定があり、現時点では見込である。
生徒指導	問題行動の未然防止に努める	問題行動10件以内にとどめる	3		現在10件の問題行動がある。
	交通安全に対する意識を高める	交通事故0件を目指す。	1	2.3	交通事故(被害者)1件 自損事故1件あり。
	登下校のマナー向上	各学期に駅指導、登下校指導の計画を立て実行する。	3		昨年に比べて、駅指導、登下校指導を強化した。
進路指導	国公立大進学	国公立大学の5名以上の合格者を出す。2年生の模擬試験偏差値で、次の数値を達成する。探究コースのクラス平均45以上、探究コースのクラス上位層(1/3) 53以上	1		昨年に比べて、国公立合格者は1名となった。
	就職	就職希望者の1次応募の合格率を70%にする。また、その受験者すべてが年内に内定する指導を行う。	3	2.0	年内に全員の内定が決定した。
	進学意識と大学進学	進路に向けた意識が高まったと感じる生徒(1年生・2年生)の割合を80%以上にする。普通科の大学短大進学割合を40%以上とする。	2		昨年に比べスポーツクラスからの大学進学が増加した。
生徒会指導	生徒会行事満足度80%以上の実現	生徒会活動を生徒一人ひとりの自主性と協調性を養う場と位置付け、体育祭、球技大会、暁星祭、3分間スピーチなどの生徒会行事を計画的に行い、生徒自身が協力して作り上げ、成功に導くことができるようにする。その結果として、各行事後に行う生徒アンケートでの満足度80%以上の達成を目標とする。	2		体育祭、暁星祭について事後アンケートを行った。それぞれの満足度は、体育祭77.5%、暁星祭72.8%であり、目標数値を少し下回った。
	生徒会総務と専門委員会でのあいさつ運動100日の実施	生徒会総務と専門委員会に所属する各委員のつながりを密にし、生徒会総務と専門委員会の役割分担を明確にし組織を機能させる。毎週持ち回り朝のあいさつ運動を行う。今年度は100日の実施を目標とする。	3	2.7	各委員会、各曜日と参加人数はまちまちであったが、100日間の実施は達成した。
	体育祭・暁星祭での来場者数の前年度比20%以上のアップ	開かれた学校づくりを目指し、地域や市民のみならず、体育祭、暁星祭への興味・関心をもってもらえるような取り組みをする。今年度の来場者数の前年度比20%以上のアップを目標とする。	3		来場者数は、体育祭で約160名(前年度比23%アップ)、暁星祭で約400名(同33%アップ)となり、数値目標を上回った。
保健環境	心身ともに健康な状態で学習に取り組めるよう、清潔で気持ちの良い学習環境を整える	日常の清掃を徹底すると共に年間計画による月末大清掃(年11回)を実施する	2		月末大清掃は予定通り実施した。日常の清掃に不徹底があった。
		法定の学校環境検査を実施し不備は速やかに改善する	3	2.8	管理薬品・照度・水質などの検査を実施し不備はその都度改善した。
	公共物を大切にすることを育てる	備品の適正な使い方やメンテナンスについての掲示物を作成し周知する	3		ヒーター・エアコン・クリーナーなどについて掲示物を作成配布した。
		備品設備の点検をし修理の要請や補充を行なう	3		修理の要請や備品の補充を速やかに行なった。
企画広報	募集強化地域を設け、特に専願入学者増を目指す	普通科・看護科の定員充足率 100%	1		パンフレット、TV番組等の媒体、訪問、説明会といった広報活動に力を尽くしたが、目標に遠い数値が結果としてあらわれると推測される。
		普通科の推薦・専願入試 定員の50%にあたる80名以上の入学	1	1.3	広報活動が成果に結びつかなかった。特に加茂・三条地域に力が及ばなかった。
		中学校における高校説明会 三条市・燕市 11校以上 秋葉区・五泉市 8校以上 南区 3校以上	2		三条市燕市9 秋葉区五泉市5 南区0。目標達成率64%

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	平均値	
1学年 自己記録 の更新	豊かな人間形成	テーマに沿った面談を4回行い、学年間で共有し問題解決に向かわせる。	1	1.7	2学期に入り、遅刻が目立ちその対処がもっと早くできたのではないかと感じます。 漢字検定の合格率40%を達成し、それとリンクした指導を進めることができた。 宿泊オリエンテーションからスキー合宿まで一体感を持って取り組めた。
	基礎学力の向上	各種検定合格で50%を目標とする。基礎力診断テストでD3を10%にする。	2		
	自他共栄	総合やLHで、交流のある授業を5時間以上展開する。	2		
2学年 「社会で活躍 できる 力を育む」	・学習習慣の定着 各種検定取得率50%以上 模試のGTZのCランク以上 を2倍にする。	1年間に行われる各種検定で2学年全生徒の半分以上が何か一つでも検定を取得できるようにする。また各学期に行われる模試でCランク以上の人数を倍になるよう学習習慣の定着を図る。	1	1.7	検定取得では各クラスとも合格率50%達成できず。 模試では国数英の3教科でCランクの微増はあったが、倍増には至らなかった。 進路目標未定者が若干名いるが、ほぼ達成できた。 生徒指導件数は3件でほぼ目標に近かった。
	・進路目標の明確化 進路目標の未設定0名 ・中堅学年としての自覚 生徒指導件数0件	進路学習や面談を通して、進路目標を定める事が出来ない生徒をなくす。 中堅学年としての自覚と分別を持った行動を行い、下級生の手本となるようにする。	2		
	各種検定を取得する	各検定(3級以上)の資格取得率80%以上を目指す	2		
3学年 切り拓く自分 をつくる ～高校生活 の完成～	個々の希望進路を実現する	国公立大学合格者5名以上 進路未定者0 専攻科進級100%	1	1.7	全体で60%であった。複数取得や上級取得の生徒も出たが、全体的な底上げに課題を残した。 国公立大学1名合格のみ。4年制大学進学者は大幅に増えた。 最上級学年の自覚を持ち、行事に積極的に取り組んだ。
	温かく全校をサポートする	体育祭、晩祭祭典参加 委員会、クラブ活動で3年生としての役割を果たす	2		
看護科	学習耐性を強化するとともに、知識の定着を図る	各学年で朝学習を年間150回以上行い、実質的参加が毎日9割以上となる	3	2.0	1,2年生は150回を超えた。3年生は臨地実習があり120回となった。ほぼ全員の生徒が参加できた。 再試験の受験者は減少傾向にあるが30%減には至らなかった 授業を聞く態度、臨地実習での傾聴の態度は学年が上がるごとに良好になっている。 臨地実習を経験した2,3年生は、自己の課題に気付くことが出来ている生徒が多かった。 SNSの使い方など問題があった。
	チームワークを身に着ける	人の話を最後まで聞く。あいづちやうなずきなど共感の姿勢を示す。傾聴力を養う	2		
		自らの課題に気づく。	2		
		校内の規律、実習するうえでの規律を守る。規律性、倫理性を養う。	1		
国際人材	英検学習	英検2級以上取得者を5人以上出す	2	2.0	目標は達成されていないが、2年生は全員3級以上合格。 1,2年から各1チームを出すことができた。1年チームは積極的に取り組み、長岡高校から勝利をえた。 今までで最多の4名が予選大会に出場した。
	全国高校英語ディベート大会への出場	県大会準優勝以上	2		
	英語スピーチコンテストへの出場	新潟県スピーチコンテスト県大会への出場	2		
国語科	読解力を身につけさせる	現代文テキストの評論文・小説の主題の理解。 古典分野の内容の理解。 新聞・その他の文章の理解。	2	2.0	おおむね達成できたが、新聞を活用した授業は限定的なものとなってしまった。 文章としてのまとめはできたが、スピーチの技術習得までは至らなかった。 例年同様、小論文指導を行うことができた。漢字検定合格率も1学年としての協力もあり向上した。
	表現力を身につけさせる	自分の意見を文章としてまとめる。 案内文、その他の文章の作成。 スピーチを取り入れた表現力の向上。	2		
	受験に向けた学力の定着	国・公・私立大学に対応する問題解決力を養成し、進路の実現を目指す。 小論文指導によりAO・推薦志望生徒の1次合格率80%以上を目指す。 今年度漢字検定3級以上の合格者を昨年より増加させる。	2		
地歴 公民科	わかりやすい授業の実施	生徒の関心・意欲をひくような教材を用いる等説明に工夫を行い、知識・理解の力を習得させる。	2	1.3	プリント、副教材等を活用し、丁寧な指導に努めた。 センター試験において主に地理歴史公民科目を使用する受験生がいなかった。 特別授業等で努力はしたが、成果に結びつかなかった。
	模試偏差値50以上	入試に使う地歴公民科目の模試の範囲を生徒に常に意識させ、課題・解説等を出すことで指導を行う。	1		
	センター得点率80%以上を3名以上	地歴公民のセンター入試科目の科目で得点率80%の成績取得者を3名以上出すよう指導する。	1		
数学科	わかりやすい授業を実施する	生徒の実態に即した内容を精選し、小中学校の段階までさかのぼって説明するなどの工夫をする。	2	1.7	教師それぞれがプリントを作成し、わかりやすい授業を実践した。 合格率17.4%で、目標達成はできなかった。 基礎力・実力診断テスト課題の提出は良かったが、進学模試では目標を達成できなかった。
	数学検定の合格率40%を目指す	数学検定の内容を授業で取り扱うなど、きめ細かい指導をし、合格率向上を目指す。	1		
	進路に向けた実践力をつける	進学模試、基礎力・実力診断テストでの予習復習を通して、レベルの向上を図る。	2		
理科	受験使用者の平均偏差値を50以上にする	模試等の成績を参考に得意不得意を把握、共有し原因に対応する。また演習を活用し、できるという自信をつける。	1	1.5	受験使用者での平均偏差値50は達成していない。 NIE、ニュース検定の枠を利用して授業見学は行えた。
	授業内容の充実をはかり、理科への興味関心を高める。	お互いの授業を見学し、さまざまな指導方法を吸収し反映する。	2		
体育科	体育授業に積極的に参加する(健康管理も含む)	体育出席率(見学は欠席扱いとする)90%を目標とする	2	2.0	休む者とそうでない者が二極化されるという課題が残る。 66名ということで目標まではあと一歩であった。女子のA評価が少ない。 学科やコースでの差が大きいため、下の層を引き上げることが必要。
	生涯を通じて継続的に運動ができるよう体力・運動能力を育てる	スポーツテストA判定 70人以上を目標とする	2		
	個人及び社会生活における健康・安全についての理解を深める	保健定期テスト平均点70を目標とする	2		
英語科	授業力の向上	毎学期、授業見学の機会を持ち、お互いの指導を検証し授業力向上に努める。	1	1.3	個々で研修に参加したが、授業見学の機会を作れなかった。 得点率60%以上は2名にとどまった。 探究の準1級は出なかったが、普通科の2級合格者が出た。 それぞれ目標には達しなかったが、例年以上の結果が出た。 今年度の1年生は受験させなかった。 合格率30.2%で、目標に届かなかった。 合格率28.6%で、目標を達成できた。
	センター試験上位1/3の平均得点率60%	平素の授業からセンター試験及び大学受験を意識した指導を実践する。	1		
	実用英語技能検定取得率の向上	探究コース:準1級1名、2級5名、準2級10名、3級全員合格 普通科、看護科:準2級複数名、3級20名、4級40名	2		
情報・ 商業科	ビジネス文書実務検定1年生4級合格率80%	生徒の実態に合わせ、きめ細かく丁寧な授業を行う。	—	2.0	
	ビジネス文書実務検定2年生3級合格率40%		1		
	ビジネス文書実務検定3年生2級合格率20%		3		

【評価基準】

- 1 達成できなかった(目標に遠かった)
- 2 もう少しで達成できた(目標に近かった)
- 3 達成できた

全体評価 平均値

1.9